

## [成果情報名]硬質小麦「長崎 W2号」の極早播における生育・収量・品質

[要約] 硬質小麦「長崎 W2号」の 11 月上旬の極早播は、11 月下旬の普通播と比較して出穂・成熟期は 4 日程度早くなる。収量、検査等級及び子実タンパク質含有率には差はない。

[キーワード] コムギ、早播

[担当] 農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先] (代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分] 農産

[分類] 指導

[作成年度] 2015 年

---

### [背景・ねらい]

「長崎 W2号」は、長崎ちゃんぽん麺用として本県で育成した硬質小麦の早生品種である。「長崎 W2号」は秋播性程度がⅣ（Ⅰ～Ⅶで数字が小さいほど幼穂分化のための低温要求度が低い）であるため、早播きしても茎立が遅く凍霜害の被害を受けにくい。そのため、播種期の降雨による播種遅れの回避や作期幅の拡大による面積拡大が期待できるが、収量・品質等に対する影響が解明されていない。

そこで、本品種を 11 月上旬に極早播した場合の生育・収量・品質を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 11 月上旬の極早播では、11 月下旬播種と比べ、出穂期、成熟期とも 4 日程度早い（表 1）。
2. 稈長及び穂長はやや長くなるが、穂数、千粒重は同程度で収量に差はない（表 1）。
3. また検査等級及び子実タンパク含有率にも差は認められない（表 1）。
4. 11 月上旬の極早播での茎立期（主稈長 2cm）は出芽期から約 102 日、穂肥の目安となる幼穂長 2mm 到達日は出芽期から約 92 日となる（表 2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 極早播は年により凍霜害の発生も懸念されるため、内陸地等、気温が低下しやすい地域では避ける。
2. 茎立期及び幼穂長 2mm 到達日は、生育や気象条件により異なるので、麦踏や追肥を行う場合は、確認をして行う。
3. 早播すると雑草の発生も多くなるので防除を徹底する。
4. 極早播、早播では、子実タンパク含有率が 11.5%に達しないこともあるので、生育診断により実肥量を増やす。

[具体的データ]

表1 播種期と生育・収量・品質(2012～2014)

試験区	播種期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実重 (kg/a)	容積重 (g)	千粒重 (g)	検査 等級 (1～5)	子実 蛋白 (%)
極早播	11. 4	4. 1	5.25	79.0	8.7	331	40.4	850	38.6	2.3	11.0
早 播	11.13	4. 3	5.28	76.4	8.4	331	38.1	842	38.4	2.3	11.1
標準播	11.23	4. 5	5.29	76.6	8.3	327	41.3	845	39.5	2.2	11.4

注1) 播種様式：条間30cmドリル播き、4条/1畦(1.5m)

注2) 施肥量(窒素成分kg/10a)：基肥-5.0、分けつ肥-4.0、穂肥-6.0、実肥-6.0

表2 出芽期と茎立期及び幼穂長が2mmに到達する日とその日数

播種期	年度	播種期 (月.日)	出芽期 (月.日)	茎立期 (月.日)	幼穂長 2mm到達日 (月.日)	出芽～茎立期 日数(日)	出芽期～幼穂長 2mm到達日 日数(日)
極早播	2012	11. 3	11.11	2.23	2.14	104	95
	2013	11. 5	11.12	2.20	2. 9	100	89
	2014	11. 5	11.12	2.21	2.11	102	92
早 播	2012	11.16	11.24	3. 7	3. 1	104	97
	2013	11.13	11.24	2.26	2.23	94	91
	2014	11.13	11.23	3. 5	2.23	102	92
標準播	2012	11.22	12. 6	3. 9	3. 5	94	89
	2013	11.22	12. 6	3. 4	3. 5	88	86
	2014	11.20	11.28	3. 9	2.23	101	87

注1) 栽培条件は、表1と同じ。

注2) 茎立期(主稈長が2cmに到達した日)、幼穂長が2mmに到達する日は、約7日おきに主稈長及び幼穂長を調査し、近似式により推定。

[その他]

研究課題名：硬質小麦新品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2014年

研究担当者：下山 伸幸、土谷 大輔